

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 ちくさ学園
施設名	本山保育園
報告者（役職）	中野 礼子（園長）
住所・連絡先	名古屋市千種区朝岡町1丁目47番地
	 052-784-2648 E-mail motoyama@tcp-ip.or.jp

○タイトル（保育計画）

- 1 小さな園庭から広がる遊びの世界
- 2 園庭から広がる地域交流をめざして

○主な助成備品

砂場枠セット・砂場の砂・砂場ワゴン・砂場遊びセット・砂場カバー
折りたたみ式鉄棒・鉄棒用マット・縄跳びポール・のびのびカラー竹馬

1. 保育計画策定の目的

賃貸型保育所として平成29年4月に開園しました。

当園の園舎の特徴として、建物が駐車場用地の一角にあります。また、建物横の道路は坂道になっており、園庭としては全面が平地で確保されていません。保育園としての条件を満たすため園庭の周辺にはくぼみがあり、限られた空間の中ですが、すべり台、階段ミニクライミングウォールやロープネットのついた木製の大型遊具のみが設置されています。その環境を利用し、遊びの工夫をしながら、子どもたちの感性や創造性・社会性を養う砂場遊び、全身を使った運動遊びは近隣の公園を利用してきました。ただし、公園は地域の子どもたちが集まる場所でもあり、十分遊びきれないまま中断してしまうことの不快感を強いられることもありました。そんな子どもたちが満足するまで、実際に砂場の土を使って穴を掘ったり、丸めたり、感触を確かめたりしながら五感の発達を養い、子どもたちが自分で考えて遊ぶ力と創造性を養える砂場の設置、指先から全身の機能を使った運動遊びができる鉄棒、縄跳び、竹馬など園庭遊びの充実を図りたいという思いや、住宅地域に突然開所した保育園で気軽に遊びに来てほしいという思いから、園庭開放を目指し、小さな子どもでも遊べる環境を整え、地域の方たちの交流の場として提供したり保護者との相談窓口になれるような地域に根差した保育をすることを目的として保育計画を策定し、この度の助成を申請いたしました。

2. 具体的な実施内容

《砂場をつくりました》

園庭のスペースを考えながらどこの場所へ砂場を設置するのがよいか話し合い、子どもたちが安全でゆっくりと遊びが展開できるようにと北側の非常階段の横へ設置することにしました。大きさを図り、木枠から手作りで、温かみのある素敵な砂場ができあがりしました。



砂場ができ上がると、子どもたちは大喜び！学年によって、遊びかたもいろいろ・・・
0, 1歳は砂の感触を味わい、2, 3歳は保育者や友達との関わりからイメージを広げごっこ遊びに展開、4, 5歳は友達と協力、共有して楽しんでいました。
近くの公園に行かなくても十分満足できるまで遊べるようになりました。
また、地域交流の場として園庭開放にも遊びに来てくれました。



《鉄棒遊び》

指先から足の先まで全身の機能を使った運動遊びとして鉄棒遊びを取り入れました。最初は自分の体重を支えることができないぐらい腕の力がなかった子ども、経験することによりぶら下がったり、前回り、逆上がりまでできるようになりました。



《縄跳び遊び》

大きな縄とびに興味津々、どうやるの？とぶの？引っかかってもあきらめず何度もとんで楽しんでいました。



《竹馬遊び》

竹馬を見るのが初めての子もいました。遊び方を教えるとすぐにチャレンジ・・・バランス感覚も身につきました。



3. その成果と評価

園庭の一角ではありますが小さなスペースでも子どもたちはでき上がった砂場を見ると大喜びで目を輝かせていました。早く遊びたい気持ちを抑え幼児クラスの子どもたちは「小さな子たちから遊んでもいいよ」と順番を守るなど、優しさや思いやりの心が育ち、また砂場でのルールを決めたり園庭での遊び方を決めることにより、遊びが広がり、1人ひとりの感性や創造性、社会性が養われるようになりました。

また、0.1歳児は砂の感触を楽しみ、2.3歳児は身近なものに見たてたりごっこ遊びのなかで、子ども同士、保育者との会話を膨らませ楽しむ姿が多く見られました。

4歳児は友達と一緒に穴掘りや高い山を作りたいと同じ目的をもち楽しみを共有できるようになりました。5歳児は友達と共有した遊びの中で役割を見つけ協力する力が芽生えてきました。公園では遊びを中断して園に戻ってきていましたが、今では思う存分、納得いくまで繰り返し遊ぶことができるようになり満足できるようになりました。地域交流も園庭ができたことで園庭開放を行い、未就園児の遊び場として、子育ての相談でも遊びながら話を聞いたりすることができるようになりました。

鉄棒、縄跳び、竹馬などの遊具を使って運動遊びを楽しむことで、子どもたち自身が色々なことに挑戦しできることが増えるにつれ、自信がつき心身ともに成長している姿が評価につながっているのではないかと思います。

4. 今後の課題と展望

今回の助成による砂場の設置と鉄棒、縄跳びポール、竹馬の遊具が増えたことで、今までできなかった全身の機能を使った運動遊びを小さな園庭でもできるようになり、子どもたちも積極的に体を動かす喜びを知ることができました。

これからも、室内外にかかわらず子どもたちの発達や成長のことを第一に考え、いただいた遊具を使いながら運動遊びの充実を図り、心身ともに健康な体作りを育んでいきたいと思えます。

以上